

熱中症対策ガイドライン

- ・シニア連盟の熱中症対策を下記のとおりとします。(公財)日本サッカー協会及び(公財)東京都サッカー協会の指針を遵守し、熱中症による事故を未然に防止することを目的とします。
- ・シニア連盟はリーグ戦および各種大会の開催可否について、暑さ指数(WBGT)や試合会場の状況を勘案し、試合日の2日前または試合当日に可否の判断を行い、中止の場合は連絡をします。
- ・本ガイドラインの適用対象期間は7月1日～8月31日とする。ただし、それ以外の期間については現地の状況、当日の天候を勘案し適宜適用してください。
- ・本ガイドラインを熱中症対策の基本とするが、各カテゴリー選手の体力や試合会場の環境を勘案し、選手の安全を最優先に柔軟な対応をしてください。

《開催中止の場合の連絡方法》

- リーグ戦：【2日前に決定した場合】リーグ全体統括⇒リーグ統括⇒幹事長⇒各リーグ当該チーム(派遣審判員への連絡は各リーグの担当から行う。)
【試合当日に決定した場合】当日の本部運営担当チーム⇒当該チームおよび派遣審判員
- 大会等：大会統括⇒各大会等参加チームおよび派遣審判員
- 対象期間中はホームページの大会情報に「開催状況」のリンクより開催可否を周知する。

《開催可否の判断について》

- ・原則、暑さ指数(WBGT)が31℃(人工芝は28℃)以上では、特別の場合以外は、試合を中止とします。特別の場合とは、「別紙」【熱中症対策】の(ア)から(ケ)の対策が取られている場合とします。

※WBGTの計測について

危険にさらされる選手の置かれる環境で計測することが求められます。適切に計測をお願いいたします。

- ・手で持つ場合は、ピッチ上で地上から1.1m(胸の高さ)、壁等の近くを避け、値が安定してから10分程度の数値を読み取る。

【開催2日前の可否判断】

- ・試合日2日前の環境省の熱中症予防情報サイトが提供している『WBGTの実況と予測』サイトでWBGTを確認し、試合時間帯のWBGTが31℃(人工芝は28℃)を超える予測でかつ試合当日まで同様の状況に変化がないと予想される場合には熱中症対策が取れない会場はその試合を中止とする。

(https://www.wbgt.env.go.jp/graph_ref_td.php?region=03&prefecture=44&point=44132)

- ・開催中止の場合は以下の手順により周知徹底を図る。リーグ全体統括が2日前12時(またはその前後)の予測値から中止する場所及び時間帯を決定。(全試合を中止にするのか、危険時間帯の試合のみを中止にするかはリーグ全体統括とリーグ統括が協議し決定します。)

リーグ全体統括からリーグ統括および審判部長へメール通知(リーグ統括から確認メールをリーグ全体統括に返信。)⇒リーグ統括から当該リーグ幹事長へメール通知(幹事長から確認メールをリーグ統括に返信。)

【開催当日の可否判断】

- ・試合開始30分前(審判打合せの前)およびハーフタイム時に本部運営担当チームが黒球式熱中症指数計(連盟より各リーグへ配布したもの。)で計測を行い、記録用紙に記載しておく。

- ・ WBGT が 3 1℃ (人工芝は 2 8℃) 以上の場合かつ「別紙」【熱中症対策】が取れない場合は現場判断で中止とする。中止となった場合は本部担当チーム→幹事長→リーグ統括へ連絡を入れる。
 - ・ 熱中症対策がとれる会場であっても特に危険な状況が予想される場合は連盟役員を派遣し現場での中止判断を行う。
 - ・ 前後半のプレー中に試合を中止・延期はしない。また「中断」は行わない。
 - ・ 中止を決定した試合、以降に続く試合の開催については各リーグ統括とリーグ幹事長により協議のうえ判断する。
 - ・ 中止決定後は本部運営担当チームより派遣審判員ならびに以降の当該チームへ連絡を行う。
- ※なお、状況は刻々と変化します。熱中症の危険がある場合は躊躇なく中止してください。

《経費等の取扱いについて》

- ・ 試合開始前またはハーフタイムでの中止となった試合の派遣審判員には、謝礼と交通費を支給する。
- ・ また、リーグ戦の場合は派遣審判員へ謝礼等に加え、副審への謝礼および本部運営費を支給する。
- ・ 中止を決定した試合、以降の試合の派遣審判員には、会場に到着済みまたは向かっている審判員には交通費を支給する。
(※会場に到着されていない場合は振込で支給する。)
- ・ WBGT 数値により会場費の返金が行われる会場以外で返金の取扱いがない会場費は連盟が負担する。
(※当日、窓口等で現金支払いした場合は後日連盟リーグ会計から当該リーグ会計へ振込で支払う。)

【改定履歴】

2019 年 8 月 1 日 改定

2023 年 7 月 14 日 改定

「別紙」【熱中症対策】

(本部運営側として)

(ア) ベンチを含む十分なスペースにテント等を設置し、日射を遮る。

※全選手/スタッフが同時に入り、かつ氷や飲料等を置けるスペースを確保する。

(イ) グランド脇にスポーツドリンクを飲む場所を確保する。

(ウ) **原則 Cooling Break (前後半 3 分程度) を採用し、日除け出来る設備がない場合は前後半 2 回ずつの飲水タイム (前後半 1 分程度) が取れる試合スケジュールとする。**

試合スケジュールに無理が有る場合には試合時間に含めその時間を確保する。

具体的な運用：

Cooling Break：前半 1 回、後半 1 回、それぞれ 4 分間(ホイッスル to ホイッスル) とし、3 分間はアディショナルタイムとする。

飲水タイム：前半 2 回、後半 2 回、それぞれ 2 分間(ホイッスル to ホイッスル)の「飲水タイム」を適用し、1 分間はアディショナルタイムとする。

熱中症対策期間中は別途アディショナルタイムを設けず、競技時間の短縮措置を取る。

(エ) 審判員や本部運営スタッフ用、緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する。

(オ) 各会場に WBGT 計を備える。

上記に加え、WBGT が 28℃を超える場合 (人工芝の場合は原則中止) の試合当日の運用では、

(カ)試合会場にはクーラーがあるロッカールームや会議室等があることを確認する。

(チームとして)

(キ) 氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する。

(ク) ベンチにおける日射を遮る帽子 (日傘) を準備する。

(ケ) 選手個々人の健康 (体調) 管理し不調な選手の起用はしない。

体力の低い方、肥満の方、暑さに慣れていない方、熱中症に過去なった方。

参考資料

熱中症応急処置

https://www.jfa.jp/medical/pdf/heatstroke_firstaid.pdf

※JFA

熱中症に関する指針 (運動に関する指針)

<https://www.wbgt.env.go.jp/wbgt.php>

※環境省